

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 奈良市立飛鳥小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒630-8306
奈良市紀寺町785
E-mail asuka-e@naracity.ed.jp
Website http://www.naracity.ed.jp/asuka-e/
幼児児童生徒数 男子 254名 女子 231名 合計 485名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

研究主題を次のように定めて3年目である。

『よりよい自分と社会を創るために、学び合い高め合う児童の育成』

— 「持続可能な社会」を考える社会科学習 —

自ら学び、自ら考え、主体的に選択・判断、行動するという態度を養うことで、よりよい社会づくりのために積極的に考え行動できる児童の育成を目指す。各単元において身に付けるべき概念的知識の習得にとどまらず、「本当にこれでいいのだろうか」「自分がどうあるべきか」と自問自答を繰り返しながら、自分自身もよりよい社会形成の一員としての自覚を生み、自らもよりよい社会づくりを目指す態度をもち続けられるよう、一人一人の確かな学びとより深い学びを求める学び合いにより、確かな社会的事象の見方・考え方を身に付ける。

①ESD と社会科…より深い学びを求める社会科学習

学習過程「みつめる」「しらべる」「ふかめる」「ひろげる」の「ふかめる」段階で、児童それぞれがそれまでに獲得した具体的知識や既存の経験や知識などの事実に依拠した考えを、比較・関連・総合する過程で思考し、そこから社会的事

象の意味や特色を理解する『ねり合い』を位置付けるとともに、「ひろげる」段階において、「だからわたしたちはどうするのか」「何をしなければならないのか」「何をしてはいけないのか」という新たな問いをもち、主体的に選択・判断、行動していけるような学習を組み入れた。

②ESD と世界遺産学習・・・社会科と総合的な学習の時間の教科横断的指導計画

社会科との関連を考慮し、総合的な学習の時間の学習内容や学習方法を工夫・改善した。

[例]3年「奈良町たんけん」

1学期の社会科「校区をしらべる」で、校区の西側に広がる地域が「奈良町」とよばれることから、2学期以降の総合において、各グループが奈良町の様々なスポットについて調べたり話し合ったりする活動を通して、地域のよさや課題についてまとめ、発信する活動を行った。

③多様な発信活動

- ・10月27日（金）に、第55回全国小学校社会科研究協議会奈良大会の会場校として、約300名の参加者の下、全学級が生活科・社会科の公開授業を行った。
 - ・11月25日（土）島根県大田市で開催された第8回世界遺産学習全国サミットにおいて、5年生4名が参加し、4年生時に学習した「郷土の発展に尽くした人 -川路聖謨（かわじとしあきら）-」についてステージ発表した。
 - ・11月26日（日）第18回子どもおん祭において、3年生11名が参加し、「880年もつづくおん祭」を学習した成果を、約100名の参加者を前に発表した。
- これら以外にも、社会科や総合で学習して考えたことや地域にアピールしたいことなど、ホームページへのアップを含め、様々な方法で発信したり行動化したりした。



①第55回全国小学校社会科研究協議会奈良大会の公開授業



②3年「奈良町たんけん」



③第8回世界遺産学習全国サミット



③第18回子どもおん祭

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心に、「地域を見つめ、地域で学び、地域に学びを生かす」世界遺産・地域遺産学習を全学年で系統的に行っている。主体的・対話的で深い学びとなるよう、地域に何度も出かけ、その中で課題を見つけ、調査活動や表現・発信する活動を協働的に行えるようにしている。また、2年前から ESD の視点に立った生活科・社会科の学習を進め、各単元で育てたい資質・能力を明らかにしながら、「学び合い」「ねり合い」を展開の中心に据えた学習を通して、持続可能な社会の担い手となる児童を育成しようとしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD の理念を教育目標や研究主題に取り入れている。ユネスコスクール（ESD）担当を校務分掌に位置付け、各学年の活動の支援体制を確立しているほか、他団体との連絡・調整の役割を担っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

12月に実施した学校アンケートでは、児童の「学び合い学習に積極的に参加している。」の肯定的評価が80%、保護者の「学校は学び合いを大切にしている。」の肯定的評価が95%と、これまで3年間では最高の数値であった。しかし、児童の「総合で地域のことを調べたり考えたりすることは楽しい」の肯定的評価が70%と下がっており、活動の内容を見直す必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

第 8 回世界遺産学習全国サミットでは 5 年生児童が、「子どもおん祭」では 3 年生児童が活動で得られた成果を発表したが、いずれも多くの聴衆の前でも堂々と発表することができた。また、その様子を全校で見合うことによって、自分たちの活動に自信をもつことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

近畿 ESD コンソーシアムを通じて、奈良教育大学の学生に活動支援ボランティアとして校外での学習などについてもらった。また、奈良教育大学より ESD に関わる研修において指導・支援していただいた。また、飛鳥 CS (コミュニティ・スクール) 協議会から、校外での活動の引率や見守りなどに協力していただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成 26 年度より彦根市立城北小学校と交流。今年度は 11 月 7 日に城北小学校 6 年生が全員そろって来校し、本校 6 年生と各校の取組について交流した。毎年、子ども同士の交流を中心に行っており、来年度を見据えて 5 年生同士が作品の交流をした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

単元の展開を構想するにあたっては、まず「知識の構造図」を作成した。単元を通して、どのような中心概念に到達することを目指すのかを明らかにし、そのためにどんな学習問題を設定し、学習過程のどの段階で、どのような個別の知識（具体的知識）を獲得させていくのか、使用する資料や押さえるべき用語や語句などを整理して表した。次に、「知識の構造図」を基にして、「単元の構想」を作成した。これは、具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したものである。このように、単元展開をより具体的に構想することで、中心概念に確実に迫ることができると思う。社会的事象の見方・考え方を働かせ、中心概念に迫る学習は、調べる力や表現する力などの能力を同時に高めていくことでもあり、見方・考え方をさらに深めることにつながるものとなった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間の内容を見直ししながら、世界遺産・地域遺産学習を継続するとともに、3年間研究してきた生活科・社会科を中心とした ESD の視点に立った学習を他の教科・領域へと広げる。その中で、教科横断的な学習の可能性を探り、大胆なカリキュラム・マネジメントを構想していきたい。彦根市立城北小学校との交流については、来年度も継続し、さらに交流を深めるようにしていきたい。